

親の学びあい講座 開催の手引き

1. はじめに

核家族化、地域との繋がりの希薄化などを背景に子育て環境が変化している中、金沢市教育委員会では、家庭教育に関する指針「家庭で子どもを育むための8つのすすめ」及び「金沢市家庭教育推進プログラム」を策定しました。このプログラムでは、保護者に効果的な学習の機会を提供することを主要事業の1つと位置づけており、親の学びあい講座の開催により、家庭教育の大切さを改めて意識していただきたいと考えています。

2. 親の学びあい講座とは

親の学びあい講座とは、「家庭で子どもを育むための8つのすすめ」に基づいたテーマについて、保護者同士で日頃から感じている子育てについての悩みや思い、情報などを共有しながら学び合うワークショップの形式で進める参加型の講座です。

子育てには決まった答えがなく、答えが出ないこともあります。講座を通してそれぞれに子育てのヒントや子ども・家族との向き合い方などについて気づき生まれ、保護者同士が顔の見える関係を築くことを目的としています。

3. 親の学びあい講座の流れ

- ①アイスブレイク（場の雰囲気を和ませる）
- ②ワークショップ（意見交換などの主たる活動）
- ③ふりかえり

親の学びあい講座は、家庭教育学級や保護者会・PTAでの研修会、企業内研修などで活用できるようにシンプルなテーマにしてあります。テーマごとに「進行例」と「ワークシート」を用意しており、PTA役員や学校の先生をはじめ、どなたでもファシリテーターとして進行することができるように工夫しました。ぜひ、皆さんでご活用ください。

(活用例)



就学前健診時 入学説明会



保育所・幼稚園・認定こども園保護者会



親の学びあい講座



家庭教育学級・PTA 研修会



企業内研修

4. 親の学びあい講座の構成と内容

小学生（幼児含む）・中学生の子どもを持つ親を対象としたテーマで構成されています。

テーマの内容は、家庭教育に関する指針「家庭で子どもを育むための8つのすすめ」を素材に、子どもの年齢や発達に応じた課題としています。

テーマ	対象		「家庭で子どもを育むための8つのすすめ」
	小学生	中学生	
子どもとともに学ぶ良さとは？	<input type="radio"/>		1 持ち続けよう 子どもとともに 学ぶ姿勢
親は学ぶ姿勢、持ち続けていますか？		<input type="radio"/>	
良くないことは「良くない」ときちんと伝えることができますか？	<input type="radio"/>		2 きちんと守ろう 社会のルール 大人が手本
大人が見せるマナーの手本とは？		<input type="radio"/>	
親子であいさつ、していますか？	<input type="radio"/>		3 声かけよう 笑顔であいさつ 朝一番
あいさつはコミュニケーションの第一歩		<input type="radio"/>	
子どもの話、聞いていますか？	<input type="radio"/>		4 創ろう あたたかい家族のふれあい
子どもの心によりそっていますか？		<input type="radio"/>	
思いやりの心、育んでいますか？	<input type="radio"/>		5 大切にしよう 思いやりの心 すべての命
子どもの思い、受け止めていますか？		<input type="radio"/>	
「ありがとう」を伝えていますか？	<input type="radio"/>		6 伝えよう 心のこもった「ありがとう」
魔法のことばってどんなことば？		<input type="radio"/>	
寝る子は育つ？	<input type="radio"/>		7 育もう 子どもの健康 「早寝 早起き 朝ごはん」
良い生活リズムのポイントは？		<input type="radio"/>	
子どもにいろんな体験、させていますか？	<input type="radio"/>		8 支えよう 子どもの夢と可能性
子どもの夢、応援していますか？		<input type="radio"/>	

(※ 5～8は、H30年度に作成予定)

5. 親の学びあい講座の流れ

講座の標準的な流れです。実施時間は、およそ60分で設定しています。全体の時間に合わせて、それぞれの活動時間を調整することができます。

あらかじめ、話し合いがしやすい4～6人程度のグループを作っておきます。

時間	進行	進行のポイント
10分	学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のねらいを分かりやすく伝えます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 顔見知りになり、参加者同士がつながることが目的 ・ 結論を導き出すための話し合いではないこと ・ 互いの考えや思いを伝え合うことで、気づきを生み出す学びの場であること </div>
	学習の約束（※1）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者みんなで参加者のルール「学習の約束」を確認します。（参加・尊重・守秘）
	アイスブレイク（※2）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者の緊張をほぐし、場の雰囲気をやかにします。（資料参照）
40分	ワークショップ（※3）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者グループでワークショップを実施します。 ・ ファシリテーターは、グループの間を回りながら様子を確認します。（聞き役になることがポイントです。）
10分	ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者に気づいたことについて記入してもらいましょう。 ・ ファシリテーターがまとめたり、参加者の感想を紹介したりするなど、内容をふりかえります。

※1 学習の約束：講座を始める前に、参加者同士が確認し合うルールのこと。

- ①**参加**：積極的に話し合いに参加しましょう。特に、しっかり聞く姿勢を心がけるようにしましょう。内容によっては「話さない」「パス」という選択肢もあります。
- ②**尊重**：どのような意見や発言も批判や否定をしないで傾聴しましょう。参加者一人ひとりの考えや思いが尊重されると、安心して話し合うことができます。
- ③**守秘**：お互いの信頼がなければ話はできません。参加者個人の情報は、その場において帰り、他人に話さないようにしましょう。

※2 アイスブレイク：初めて出会った人たちが簡単なゲーム等を行うことで、緊張感がほぐれて話しやすい雰囲気になり、講座の参加者の交流にスムーズに入れるようなきっかけをつくる技法です。

※3 ワークショップ：小グループで意見交換や共同作業を進める参加型学習で、自分の意見をまとめる時間と、グループでの情報交換や話し合いの時間で構成されています。

6. ファシリテーター（親の学びあい講座の進行役）の役割

講座の進行役を、ファシリテーターと呼びます。アイスブレイクを通じて参加者の雰囲気を和ませ、参加者の交流がスムーズに進むよう、参加者の様子を見ながら声がけをし、参加者の気づきや学びを助けることが役目です。

ファシリテーター の役割

- 参加者が安心して学習できるような雰囲気をつくる。
- 参加者の主体性を尊重し、参加者自らの気づきを引き出す。
- 流れを調整する。

※ファシリテーターの範囲を超えた問題については、ファシリテーターが対応するのではなく、相談できる関係機関等を紹介しましょう。

学習の約束

講座を始める前に、「学習の約束」を参加者とともに確認しましょう。

- ①**参加**：積極的に話し合いに参加しましょう。特に、しっかり聞く姿勢も心がけるようにしましょう。内容によっては「話さない」「パス」という選択肢もあります。
- ②**尊重**：どのような意見や発言も批判や否定をしないで傾聴しましょう。参加者一人ひとりの考えや思いが尊重されると、安心して話し合うことができます。
- ③**守秘**：お互いの信頼がなければ話はできません。参加者個人の情報は、その場において帰り、他人に話さないようにしましょう。

7. 進行例・ワークシートの使い方

講座の各テーマは、進行例とワークシートでできています。

ワークシートのみ参加者の人数分コピーして配付してください。ワークシートは、終了後に回収する必要はありませんので、参加者に自由に使ってもらいましょう。



8. 「親の学びあい講座 開催の手引き」の使い方

本書は、「進行例」「ワークシート」「資料」（巻末に掲載）で構成されています。

進行例

テーマの具体的なねらいと進行例が書いてあります。

テーマを進行する時に押さえるポイントや留意点を書いてあります。

テーマの進行(小学生版)

(1) 進行例その1

1	テーマ名	子どもとともに学ぶ良さは？（8つのすずめ①）
2	テーマのねらい	・ 大人が子どもとともに学ぶことの良さについて考えます。
3	テーマ説明	・ 親は子どもがいろいろなに自ら取り組んでほしいと思っても、親が言うだけでは子どもは興味を持ちません。そこで、大人が子どもとともに学ぶ場面を想定しながらその良さについて考えます。
4	主な対象	幼児・小学生の保護者
5	テーマの進行例（60分）	【事前準備】 ・ 石、A3用紙：各グループに1つずつ置く ・ ふせん：参加者1人につき20枚程度 ・ あらかじめ、4～6人グループを作っておく
時間	進行	進行のポイント
10分	○学習のねらい：大人が子どもとともに学ぶ姿勢について考える ○学習の約束を確認する（P4） 参加・尊重・守秘 ○アイスブレイク（興料参照）	
3分	ワーク1 （15分）・石を使用 ・ エピソードを読み、子どもとともに学ぶ場面について記入してもらおう	・ 発表は中心に置いてある石を持って書いたことを話し、終わったら中心へ戻す
12分	・ 記入したことについて、グループ内で発表してもらおう	・ 最初の発表順は時計回り、2回目以降は自由
5分	ワーク2 （25分）・ふせん、A3用紙を使用 ・ 親が子どもとともに学ぶ良さについて考え、ふせんに記入してもらおう	・ 1枚のふせんに1つ記入 ・ いくつ考えてもよい
20分	・ 記入したふせんを順番に貼り、貼られたふせんを整理する（似たような意見の整理など） ※グループによって進行状況が違うので、全体を見回りながら声かけをする	・ 話す（ふせんを貼る）順番は時計回りで、全員が発表
4分	○ふりかえりをする ・ 各自が気づいたことをふりかえりシートに記入してもらおう	・ 個人の気づきを大切にすため、書く時間を保障する
6分	・ グループ内で発表してもらい共有する	

小-1

テーマのねらいや参加者の状況等に応じて、アレンジしてもかまいません。

ワークシート

ワークの流れが書いてあります。

直接書き込みできます。

ワークシート(その1) テーマ「子どもとともに学ぶ良さは？」

エピソード

お父さんは息子の太郎くんにもっと本を読んでもらいたいと思っていますが、太郎くんはいつもゲームをしたりテレビを見ていたりで、なかなか本を読もうとしてくれません。
「ゲームばかりしてないでたまには本を読んでみたらどうだ」と声をかけますが、「お父さんだってパソコンばかり見て本なんか読んでないでしょ」と言い返されてしまいます。
そこでお父さんはハッとして、さっそく太郎くんを誘って一緒に図書館へ行き、それぞれ好きな本を借りました。

ワーク1 本を読むこと以外に親が子どもとともに学ぶ場面は、どんな場面がありますか。

ワーク2 親が子どもとともに学ぶことには、どのような良さがありますか。

ふりかえり テーマを通して、どんなことに気づきましたか。

小-2

「親の学びあい講座」進行例ワークシート(幼児・小学生保護者向け)

ワークシートはこのままコピーして使えます。

家庭で子どもを育むための8つのすすめ

金沢市教育委員会では、「金沢子どもかがやき宣言」を実践する子どもを育むため、ご家庭で意識していただきたいことを「家庭で子どもを育むための8つのすすめ」としてまとめました。

- 1 持ち続けよう
子どもとともに 学ぶ姿勢**

子どもががんばったことは大いにほめて、お手伝いや学習、読書などに自ら取り組む意欲を伸ばすとともに、大人も「気づき」や「学び」を得る機会を持ちましょう。
- 2 きちんと守ろう
社会のルール 大人が手本**

「子は親を映す鏡」、大人の行動を見ています。自らの行いを通じて、礼儀やマナー、言葉づかいを教え、良くないことはきちんと叱って善悪の判断ができるようにしましょう。
- 3 声かけよう
笑顔であいさつ 朝一番**

自分からあいさつすることで会話が生まれ、家族の絆が強くなるとともに、地域の輪も広がります。笑顔のあいさつに心がけましょう。
- 4 創ろう
あたたかい家族のふれあい**

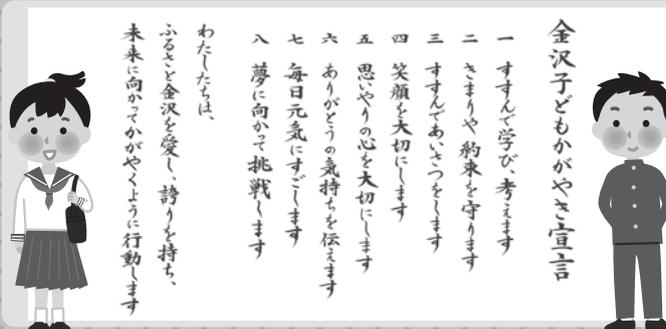
子どもに笑顔で接し、心によりそい共感すると、子どもは安心感を持ち、前向きに考えることができます。家族のふれあいや会話を大切にしましょう。
- 5 大切にしよう
思いやりの心 すべての命**

子どもが受けた思いやりは、子ども自身の思いやりの心、ゆずりあいの心につながります。自分や他者の生命の尊さを伝えましょう。
- 6 伝えよう
心のこもった「ありがとう」**

「ありがとう」と言われたうれしさは、人やものに感謝する心を育みます。日頃から、子どもに感謝の言葉を伝えましょう。
- 7 育もう 子どもの健康
「早寝 早起き 朝ごはん」**

規則正しい生活リズムと食習慣は、一日のやる気と元気の源です。基本的な生活習慣と外遊びや運動で、たくましい心と体を育みましょう。
- 8 支えよう
子どもの夢と可能性**

家族は子どもの一番の応援団です。いろいろな体験を通してチャレンジ精神やあきらめない心を育み、夢に挑戦する姿勢を温かく見守りましょう。



金沢市学校教育振興基本計画に掲げる「めざすべき金沢の子ども像」をもとに、市内の中学生によるプロジェクト活動により、子どもたちの考え方や行動の基本的な約束事となる「金沢子どもかがやき宣言」を制作しました。「家庭で子どもを育むための8つのすすめ」は、この宣言のそれぞれの項目に対応させて策定しました。